

第 23 回(2009. 9.16 配信)

雲竹齋先生の歴史文化講座 - 「9 月は台風」

「中秋の名月」という言葉があるように、9 月は空気が澄んだいい季節だが、その反面「台風」の襲来が多い月でもある。昔から、「二百十日」あるいは「二百二十日」は、日本列島に台風が襲来するといわれている。立春(節分の翌日)から数えて 210 日目あるいは 220 日目だが、現在の暦では 9 月にあたる。この日は、農家にとっては厄日だから、昔の人々は村の鎮守さまに鐘や太鼓を叩いたりしてお祈りした。

古くは、1274 年の「文永の役」や 1281 年の「弘安の役」で、来襲した元の軍船を壊滅させたのは台風だったといわれている。これを「神風」と称して、太平洋戦争ではこの神風を信じて敵艦や敵陣に体当たり攻撃をして、自爆し、戦死していった人が多数いたことは周知のとおりである。この兵士たちは、「靖国神社に戻ってこれる」と信じて死んでいったといわれているが、これがいくら中国や韓国から文句が出て、簡単には解決できない靖国神社問題を難しくしている大きな要因なのである。現在多発しているイスラム過激派による「自爆」を、他国、他民族の野蛮な行為であると他人事のように思っている人がいたとしたら、それは大きな間違いで、自分たちの祖父や父親あるいは近親の人や隣近所の人、戦争で「自爆」した人が多くいる。こういった人たちの犠牲の上で、今の日本人は平和でぜいたくな生活をして宗教に無関心で勝手な議論をしているが、この事実をわきまえたうえで、真剣に考えなければいけない問題なのである。

近年の日本では、昭和 29 年(1954)9 月 26 日に襲来した台風の影響で、洞爺丸ほか 5 隻の青函連絡船が沈没し、洞爺丸だけでも 1,152 名の犠牲者が出た。戦争による沈没を除けば、1912 年のタイタニック号の沈没に次ぐ世界第 2 位、日本史上最大の海難事故だったが、この時の台風は「洞爺丸台風」と呼ばれている。この台風の被害は、死者 1,361 名、行方不明者 400 名、住宅全壊 8,395 戸という大きなものであった。また、昭和 34 年に死者・行方不明者 5,000 人をこえる災害を出した台風第 15 号(伊勢湾台風)も、同じく 9 月 26 日だった。この伊勢湾台風は、平成 7 年(1995)の 1 月に起きた阪神・淡路大震災が起きるまでは戦後最大の災害だった。この時の台風による大きな災害によって、その後の水害対策の見直しが迫られて、賛否両論が激しい吉野川の可動堰や諫早湾干拓事業の水門問題、長野県の田中康夫前知事が強引に廃止した数々のダム計画などに繋がってくるのである。余談だが、この雲竹齋も 9 月 26 日生まれである。だからどうなんだ、ということでもないのだが

台風とは、熱帯の海上で発生した「熱帯性低気圧」が発達したものだが、日付変更線を越えてアメリカ大陸側に行くと「ハリケーン」といい、インド洋や赤道を越えた南太平洋では「サイクロン」と呼ばれている。平均的な台風のエネルギーは、広島・長崎に投下された原子爆弾の 10 万個に相当するといわれている。とはいってもピンとこないが、まあ非常に大きいということだ。

原子爆弾とは、ウランやプルトニウムの原子核が核分裂反応によって爆発させる兵器で、無差別大量破壊殺りく兵器のため、現在は包括的核実験禁止条約、核不拡散条約などで規制されているが、近年の北朝鮮やイランなどが核兵器保有に取り組んでいるという。また、パキスタンとインドは領土問題でもめているが、両国ともに核兵器を保有している。アメリカや中国、ロシアなど核兵器保有国が核廃絶に向けて取り組まない以上、事実上効力がない条約である。日本は、唯一被爆を体験した国で、昭和 20 年(1945)8 月 6 日、北マリアナ諸島のテニアン島を飛び立ったアメリカ空軍の B29 爆撃機「エラノ・ゲイ号」が、8 時 15 分「リトルボーイ」と名付けられた原爆を広島市

に投下した。これが史上最大の爆撃である。その3日後の8月9日11時2分、同じくB29爆撃機「ボックスカー号」が原子爆弾「ファットマン」を長崎市に投下した。広島市の人口およそ35万人(推定)のうち死者十数万人、長崎市の人口およそ24万人(推定)のうち、死者7万数千人を数えた。東京が壊滅した東京大空襲の米軍B29爆撃機344機、爆弾は1720トン(TNT火薬換算)だったが、広島原爆の威力は、東京の10分の1程度の広島に、B29爆撃機がたった1機で1万5千トンのTNT火薬をばらまいたことになる。生き残った多くの人たちが、いまなお後遺症で苦しんでいるのは周知のとおりである。なお、原爆をアメリカ本土からテニアン島に運んだアメリカ海軍の重巡洋艦「インディアナポリス号」は、その帰途、日本海軍の潜水艦「伊58号」によって撃沈された。これが帰途でなく往途だったら原爆は投下されなかったかもしれないというが、アメリカによる無差別大量虐殺行為であることは間違いない。

気圧は、大気の重量から計算されるが、通常、1気圧をおよそ水銀柱で760 mm Hg = 1013 ミリバール(mb)としている。現在日本の気象庁では国際単位のヘクトパスカル(hPa)を用いているが、パスカルは「人間は考える葦である」といったブлез・パスカル(1623~1663)にちなんで命名されている。

1013ヘクトパスカルより低い数値になると、すべて「低気圧」と呼ぶとはかぎらない。あくまでも周囲の気圧との比較から、高気圧もしくは低気圧と呼ぶのである。ついでに、欧米では温度を「華氏」で表すが、日本では「摂氏」で表す。この「華氏」は、ドイツ人のファーレンハイト氏が1724年に考案したが、中国語で「華倫海」と音読みしたのが日本に伝わって「華氏」と呼ばれているのである。同様に、「摂氏」は18世紀初頭にスウェーデンのアンデルス・セルシウスが考案したものだが、これも中国語の「摂爾修」からきている。華氏は「F」、摂氏は「C」で表すのはそのためである。

低気圧は、何も大気中だけに発生するものではない。子供の躰が悪かったりすると、家庭内台風が吹き荒れるようになるが、こういうときは、原爆ならぬ拳骨をお見舞いしなければいけない。暴風には暴力で対抗して、家からたたき出してやるのだ。しかし、奥さんの低気圧には手の打ち様はない。じっと嵐が止むのを待つばかりだが、時によっては貢ぎ物(プレゼントといってもいい)が案外功を奏すようだという。この場合は、他の女性が持っていないものにすれば、より一層効果的だといわれている。